



# いずみ野

令和3年1月29日

校長 齋藤 敦子

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/izumino/>

学校教育目標 「自分が好き 友達が好き 学校が好き このまちが好き」  
～心豊かに学び合い、ともによりよく生きようとする子～

## いじめストップ！

副校長 中村 好宏

大晦日の夜、とてもインパクトある歌がテレビから流れて来ました。すでに2013年にリリースされていたようですが、その日、その晩初めて聴いた衝撃にすぐに歌詞を調べたくなりました。以下、歌詞の概要です。

※正式な歌詞は、恐れ入りますがご自分でお調べください。

**気付かないふりしてた 仲間も 実は 人を傷つけていること**

→まさにそうですね。しかし、見逃し、傍観、わかっているながら何もしない、ありがちです。

**昨日までの自分に 別れを告げて これからは何かを言おうとしていくこと**

→まずは第一歩。自分が踏み出さないことには始まりませんが、その踏み出す一歩がなかなか出ないことよくわかります。

**イジメ ダメ！ と繰り返し、イジメはカッコわるいよ、と強烈にアピール**

→背中を押してくれる勢いのある言葉です。ならば、この流れに乗ってしまおうか、と思えました。

2月の最終水曜日は、いじめをなくすキャンペーンの日、「**ピンクシャツ・デー**」です。

カナダから始まったこの取組は、この日本でも年を重ねるごとに広く知られてきました。私自身はある人から教えてもらい、何気なくピンクのシャツを着たのがもう7年も前のことです。その後、教育委員会事務局からポスターが届くようになり、市内の公立学校への啓発もされてきました。

今では、1年に1日だけではなく、2月を「ピン



↑今年のポスターです。

クシャツ・デー月間」としたり、毎月最終水曜日を「ピンクシャツ・デー」にしたりと、「いじめストップ！」の意識を高めるための取組が行われてきています。単なるその日だけのキャンペーンにしな

いということがとても大切です。

意味をかみしめ、自分自身ならどうするのかを振り返りたいです。

昨年12月1日の朝会で「世界人権デー」に寄せて、いじめをなくそうという話を全校児童にしました。今、このコロナ禍において、だれであってもいつ感染するかわからない状況であるにもかかわらず、自分以外のだれかがひとたび感染してしまうと、ふっと、自分との間に見えない線(境)をつくりやすいものです。いじめや差別の心が知らず知らずのうちに膨らんでいきます。「みんな違って、みんないい。」は知っていても「あなた違って、あなた悪い」になりやすいのが私たちであることを話しました。よくない思いや考えを大きくしない冷静な判断力を仲間と共に力を合わせて培っていきたいです。いじめや差別はされる側になんの問題もありません。する側に問題があるのです。見ないふりをするのもいじめや差別につながります。

イジメ ×!

カッコわるいよ ×!×!×!×!